

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 1 0 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 1 1 月 1 日)

調査期間：平成 1 7 年 1 0 月 1 9 日～ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 8 0 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 7 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 9 サービス業 6 0 9

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年10月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅縮小も、原油高など不安要因が依然漂う

10月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.8）よりマイナス幅が1.6ポイント縮小して29.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、卸売を除く4業種でマイナス幅が縮小した。業況好調、売上増加、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「業況は少しずつ良くなっている」（電気工事）との声がある一方、「公共工事が減少しているとともに民間工事の動きも悪く、収益、資金繰りともに悪化している」（一般工事）、「公共工事の発注は依然として低水準で推移しており、民間工事、個人住宅の需要も低迷している」（建築工事）との声が寄せられている。

【製造業】では、「全般的に安定した受注を確保できており、工場の稼働率も高い状態を保っている」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「最近、地場産業の業況について、悪化するのとは一番先で回復するのは最後だと実感し始めている」（漆器製造）といった声や、「原油価格高騰が、徐々にではあるが原材料の仕入れコストを上昇させており、採算面で厳しさが増してきた」（その他化学工業）と原油価格高騰を原因とする仕入れコスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「愛・地球博」も終了し、いよいよこれから巻き返しを図ろうという状況で、売上も順調に増加している」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「建築関連商品を中心に荷動きが悪く、地方にいくほど景況感は悪化している」（鉱物・金属材料卸売）、「原油価格高騰により、輸送コストと商品の仕入れコストの上昇が起きている」（農畜産水産物卸売）と原油価格高騰による影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「厳しい環境が続いているものの、来店者数や売上高の減少幅が小幅となり、今後の消費動向改善へ期待感を持っている」（百貨店）との声がある一方、「新車・中古車ともに売上が悪化している」（その他の小売）、「来店者数が毎月減少しており、個人消費が改善しているとは思えない」（百貨店）といった声が寄せられている。

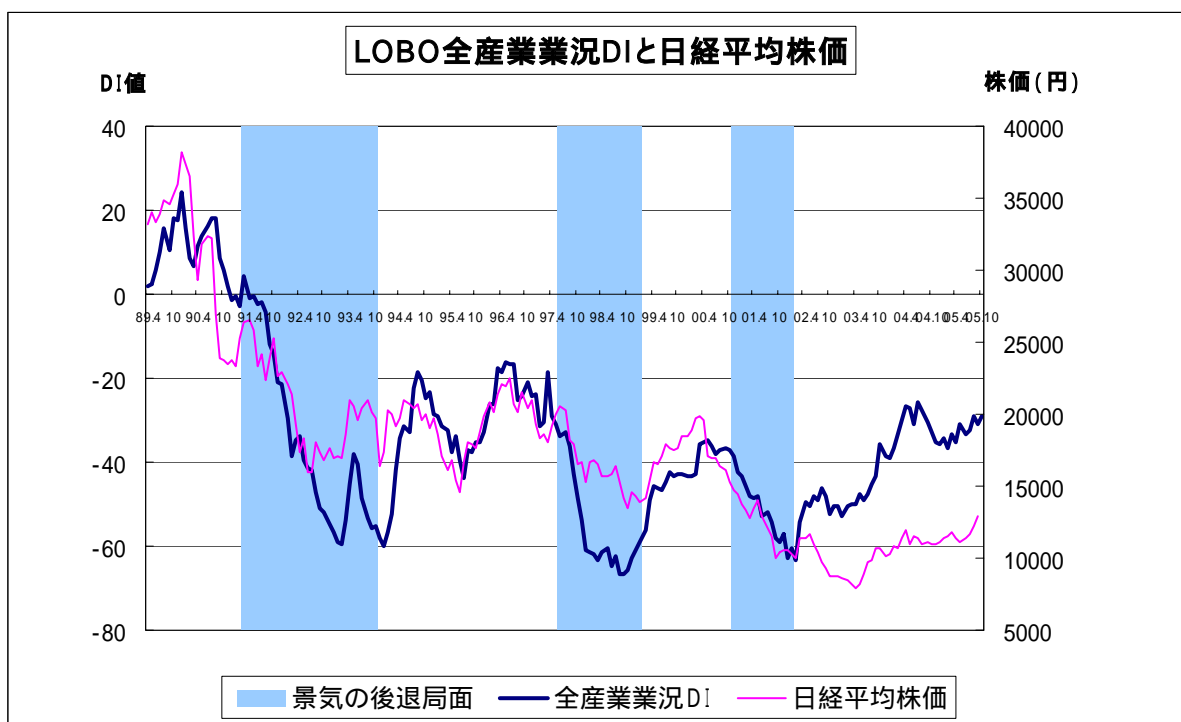
【サービス業】では、「愛・地球博」が終了し、減少していた団体客の利用件数が回復した」（旅館）との声がある一方、「10月は法人需要が伸びる時期だが、今年は来店者数、客単価ともに前年同期を下回り、業況は厳しい」（バー、キャバレー等）、「個人タクシー業界は乗客数が減少し売上が悪化、廃業者が次第に増加している」（他事業サービス）といった声や、「原油価格高騰による燃料コスト、仕入れコストの上昇分を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」（洗濯）と原油価格高騰の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスで縮小したものの、他の 3 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 1 . 7 ポイント拡大して 2 6 . 3 となり、2 カ月連続で拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は製造で縮小したものの、サービスで横ばい、他の 3 業種では拡大したため、全産業合計の採算 D I は 1 . 3 ポイント拡大して 3 2 . 1 となり、2 カ月連続で拡大した。

向こう 3 カ月 (1 1 月 ~ 1 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 2 3 . 5 と、昨年同時期の先行き見通し (2 5 . 5) に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷を訴えるコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.8）よりマイナス幅が1.6ポイント縮小して29.2となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

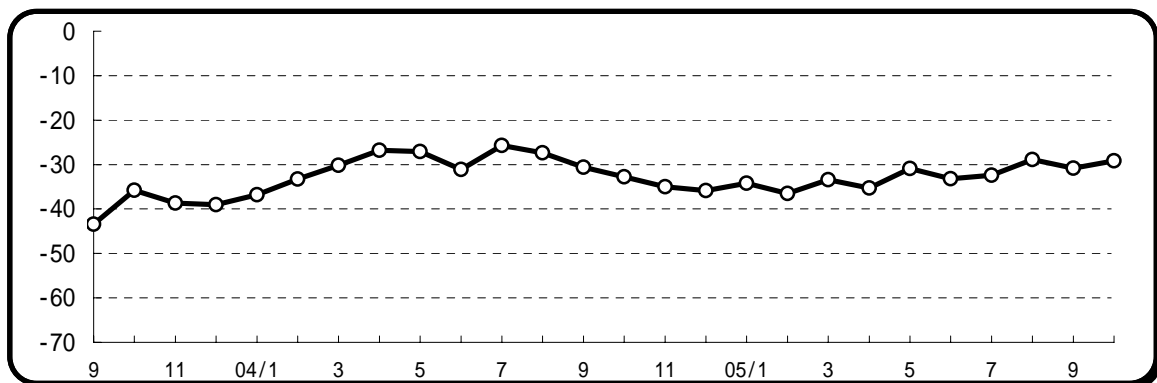
向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が23.5と、昨年同時期の先行き見通し（25.5）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	30.9	33.2	32.4	28.9	30.8	29.2	23.5 (25.5)
建設	42.2	44.7	43.2	37.9	41.0	37.6	34.9 (39.4)
製造	23.8	23.9	21.2	18.5	21.2	18.0	17.0 (15.2)
卸売	37.7	40.2	38.5	35.3	29.3	41.5	29.9 (21.2)
小売	31.0	30.8	33.9	31.2	33.7	32.6	22.0 (28.5)
サービス	28.7	35.2	33.1	29.0	31.3	26.7	22.5 (25.2)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年10月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

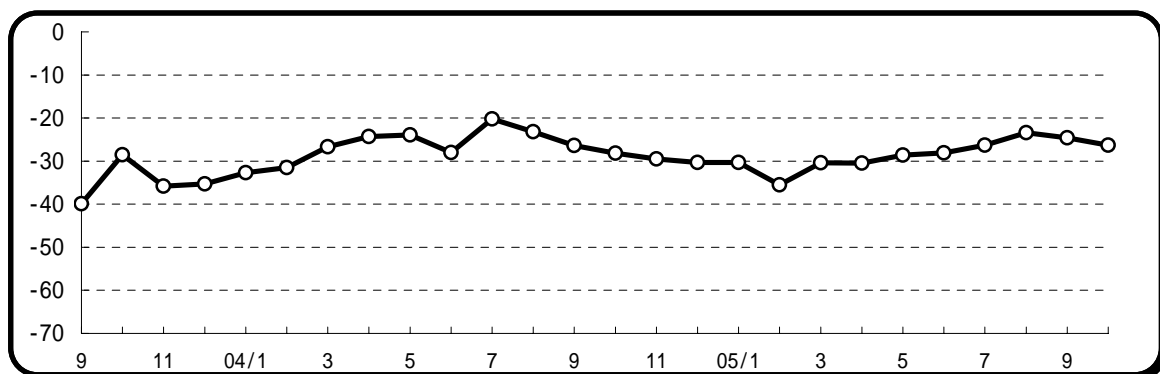
売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.7ポイント拡大して26.3となり、2カ月連続で拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が15.7と、昨年同時期の先行き見通し(21.1)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	28.6	28.1	26.3	23.4	24.6	26.3	15.7 (21.1)
建設	39.6	40.1	37.0	32.2	32.5	34.3	25.1 (37.9)
製造	13.7	10.3	9.6	9.3	6.7	5.8	7.6 (7.9)
卸売	38.4	39.9	36.7	37.1	32.5	40.9	26.1 (15.8)
小売	30.4	29.2	31.1	26.9	30.3	35.4	18.3 (25.8)
サービス	31.5	32.8	27.2	23.5	28.2	26.4	11.4 (20.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

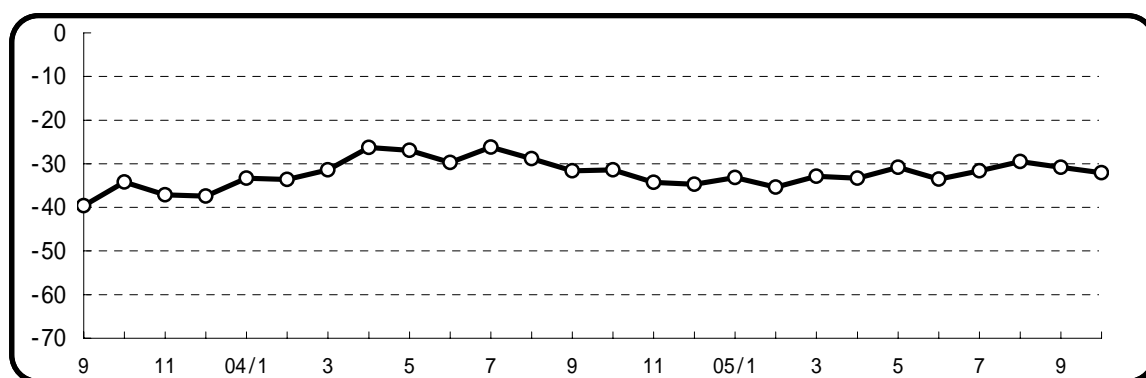
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造で縮小したものの、サービスで横ばい、他の3業種では拡大したため、全産業合計の採算D Iは1.3ポイント拡大して32.1となり、2カ月連続で拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が22.8と、昨年同時期の先行き見通し(25.4)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	30.8	33.5	31.6	29.5	30.8	32.1	22.8 (25.4)
建設	44.4	50.0	47.3	42.8	42.6	43.1	35.7 (44.3)
製造	25.2	27.1	27.5	24.6	23.5	21.6	20.2 (18.5)
卸売	30.2	32.9	29.6	30.6	33.1	41.5	24.8 (18.2)
小売	27.7	27.1	27.1	25.7	29.8	33.3	18.8 (24.6)
サービス	32.0	36.9	32.4	30.7	31.3	31.3	21.0 (23.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	21.8	22.4	20.7	19.2	19.6	19.0	16.3 (19.9)
建設	39.2	37.8	37.9	31.2	30.8	29.8	27.0 (35.3)
製造	16.8	16.8	17.8	17.7	17.5	15.5	15.0 (14.2)
卸売	17.7	16.5	19.6	13.3	17.7	20.9	15.1 (14.6)
小売	18.4	18.1	16.4	14.5	16.2	16.6	12.7 (16.9)
サービス	20.3	24.4	16.3	20.1	18.3	17.2	15.1 (21.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売で悪化超感が強まったものの、他の3業種で弱まり、全産業合計でも2カ月ぶりに若干弱まる。

【先行き見通しD I】製造、卸売で悪化超感が強まったものの、他の3業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	19.6	16.9	17.3	17.2	19.5	19.0	17.9 (19.5)
建設	32.0	25.5	27.3	23.3	28.4	31.0	29.6 (24.6)
製造	34.6	31.8	31.0	33.5	35.0	36.3	27.3 (28.1)
卸売	19.0	14.6	16.0	12.9	14.7	13.2	15.3 (25.5)
小売	5.9	3.9	5.1	4.8	8.4	4.9	7.8 (8.2)
サービス	12.5	12.1	11.6	12.6	12.2	12.2	13.5 (17.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造で上昇超感が強まったものの、サービスで横ばい、卸売、小売で弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに若干弱まる。

【先行き見通しD I】建設を除く4業種で上昇超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	5.0	5.2	4.4	3.7	3.8	3.8	3.9 (7.3)
建設	23.1	19.9	20.2	18.6	17.4	19.0	17.8 (17.4)
製造	5.3	4.3	3.5	5.8	5.1	4.5	7.7 (9.9)
卸売	8.8	12.8	5.3	3.6	3.8	5.7	5.6 (8.6)
小売	2.2	3.6	0.2	3.0	3.5	2.8	4.2 (4.3)
サービス	0.2	3.9	0.5	0.2	2.1	0.2	0.3 (0.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設、卸売で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まったものの、他の2業種では過剰超感が弱まり、全産業合計では横ばいとなった。

【先行き見通しD I】建設で過剰超感が強まったものの、他の4業種で弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年10月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「依然として前年度と比較し着工件数が下降しており、11月以降が不安」(帯広・建築工事)、「原油価格高騰による原材料コストの上昇が続いており、現在は合理化で吸収しているものの、先行きに不安を感じる」(大府・工業用プラスチック製造)、「原油価格高騰により、トラックによる製品の輸送コストが上昇し始めている」(諫早・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「前月に引き続き、販売数量の減少と販売単価の下落に悩まされている」(石岡・農畜産水産物卸売)、「来客者数・客単価ともに落ち込んでおり、業況は依然として厳しい」(銚子・商店街)、「来店者がなく廃業する店が増えており、業況に回復の兆しが見られない」(延岡・食堂・レストラン)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況好調、売上増加、先行き期待という声も寄せられており、「公共工事が減少している一方、民間工事では新築・改修等の発注が増加している」(長崎・一般工事)、「受注、売上ともに堅調に推移し、一部では設備投資や従業員新規採用の動きも出ている」(高崎・自動車・附属品製造)、「若干ではあるが、売上高がプラスの方向に向いてきた」(茨木・印刷関連工業)、「全体としては販売努力により売上は増加している」(京都・衣服・日用品卸売)といったコメントが寄せられている。また、「景気回復マインドが地方にも普及してきたのかもしれない」(北上・百貨店)、「婦人服・婦人雑貨で売上高が微増。今後、ウォームビズに期待している」(姫路・百貨店)、「今年の同時期に比べ、若干ではあるが好転の兆しを感じられる」(館山・食堂・レストラン)と先行きに期待する声も寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

各業種から原油価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原材料の仕入コストがここに来て大幅に上昇してきた」(古河・電気工事)、「原油価格高騰がナフサなど原材料価格の上昇要因となっており、コストアップをもたらしている」(神戸・タイヤ・チューブ製造)、「原油価格高騰で原材料の仕入コストが上昇しているが、すぐに販売価格へ転嫁するわけにはいかず先行きが不安」(川之江・紙製造)という声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは「原油価格高騰により燃料費が高騰しており、有料道路の利用を抑制している企業が増えている」(下関・食料・飲料卸売)との声のほか、「原油価格高騰により商品や包装材などの仕入コストが上昇しているが、販売価格に転嫁できない状況にある」(札幌・百貨店)、「原油価格高騰に伴い軽油価格が上昇しているが、それに見合う運賃を収受できない状態が続いている」(豊橋・その他サービス)と、コスト上昇分を価格転嫁できないというコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	8月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇
	9月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
	10月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは4カ月ぶりに拡大した。「公共事業の発注が9月に集中したので、9月の受注高は伸びた」(一般工事)、「民間工事で少々忙しくなってきた」(建築工事)との声がある一方、「官公需、民需ともに相変わらず低調で、業況は依然として厳しい」(一般工事)、「公共工事が減少しているとともに民間工事の動きも悪く、収益、資金繰りともに悪化している」(一般工事)、「公共工事の発注は依然として低水準で推移しており、民間工事、個人住宅の需要も低迷している」(建築工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは5カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「自動車、工作機械関連の仕事量が多くなっている」(非鉄素形材製造)、「全般的に安定した受注を確保できており、工場の稼働率も高い状態を保っている」(一般産業用機械製造)との声がある一方、「最近、地場産業の業況について、悪化するのとは一番先で回復するのは最後だと実感し始めている」(漆器製造)、「国内景気は回復基調にあるが、家具業界では需要の長期低迷と海外からの低価格品の流入により、依然として厳しい状況が続いている」(家具製造)、「原油価格高騰が、徐々にではあるが、原材料の仕入れコストを上昇させており、採算面で厳しさを増してきた」(その他化学工業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「前月に引き続き、紙関連商品の取引高の増加傾向が続いている」(衣服・日用品卸売)、「愛・地球博」も終了し、いよいよこれから巻き返しを図ろうという状況で、売上も順調に増加している」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「建築関連商品を中心に荷動きが悪く、地方にいくほど景況感は悪化している」(鉱物・金属材料卸売)、「原油価格高騰により、輸送コストと商品の仕入コストの上昇が起きている」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2か月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上・採算D Iは2カ月連続で拡大した。「厳しい環境が続いているものの、来店者数や売上高の減少幅が小幅となり、今後の消費動向改善へ期待感を持っている」(百貨店)、「業況は、少しずつではあるが上向いている感がある」(その他小売)との声がある一方、「新車・中古車ともに売上が悪化している」(その他の小売)、「来店者数が毎月減少しており、個人消費が改善しているとは思えない」(百貨店)、「消費者の財布の紐は固く、食料品を除いて売上は低迷し続けている」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは横ばいであった。「愛・地球博」が終了し、減少していた団体客の利用件数が回復した」(旅館)、「受注案件が前年同期より増加しており、業況が好転する兆しが見えてきた」(自動車整備)との声がある一方、「会食、会合のシーズンに入ったものの、来店者数、客単価ともに落ち込み、収益が悪化している」(旅館)、「10月は法人需要が伸びる時期だが、今年は来店者数、客単価ともに前年同期を下回り、業況は厳しい」(バー、キャバレー等)、「個人タクシー業界は乗客数が減少し売上が悪化、廃業者が次第に増加している」(他事業サービス)、「原油価格高騰による燃料コスト、仕入コストの上昇分を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」(洗濯)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、近畿、九州でマイナス幅が拡大したが、他の6ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに縮小した。

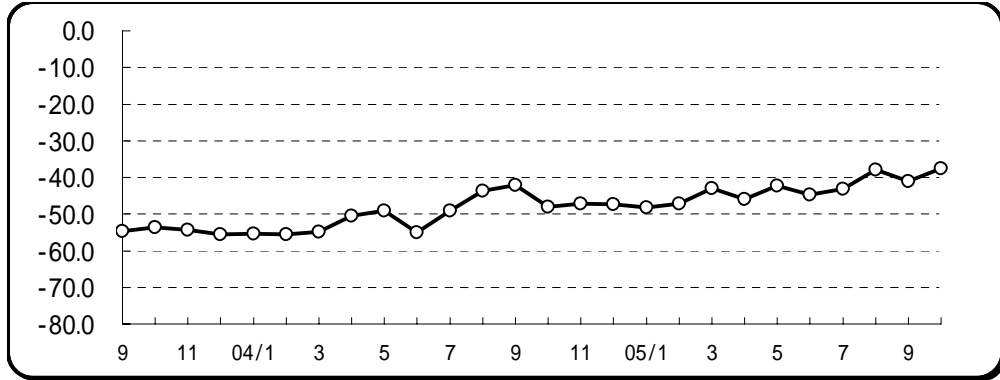
ブロック別の向こう3カ月(11月~1月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、関東、東海、中国、四国で拡大したものの、他の4ブロックで縮小し、全ブロック合計でも縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

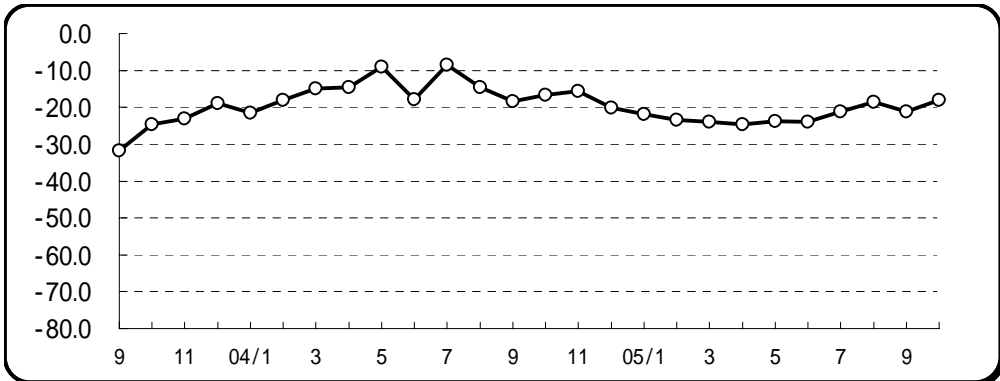
	17年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全 国	30.9	33.2	32.4	28.9	30.8	29.2	23.5 (25.5)
北海道	36.4	32.4	31.4	32.3	36.0	39.3	31.6 (25.6)
東 北	37.7	32.7	37.1	30.7	30.9	25.0	27.5 (35.3)
北陸信越	27.6	36.9	25.1	26.2	24.1	23.6	20.1 (32.4)
関 東	32.8	33.8	29.5	29.0	28.5	27.3	17.7 (17.1)
東 海	20.1	26.1	30.2	23.8	27.8	25.4	26.6 (18.2)
近 畿	36.0	35.8	40.7	31.7	28.9	31.2	24.6 (33.7)
中 国	32.9	30.3	32.9	29.2	37.2	32.9	28.8 (28.6)
四 国	25.9	40.8	37.4	33.8	40.1	30.2	22.3 (21.7)
九 州	27.0	28.9	29.4	24.4	32.8	33.3	24.3 (26.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

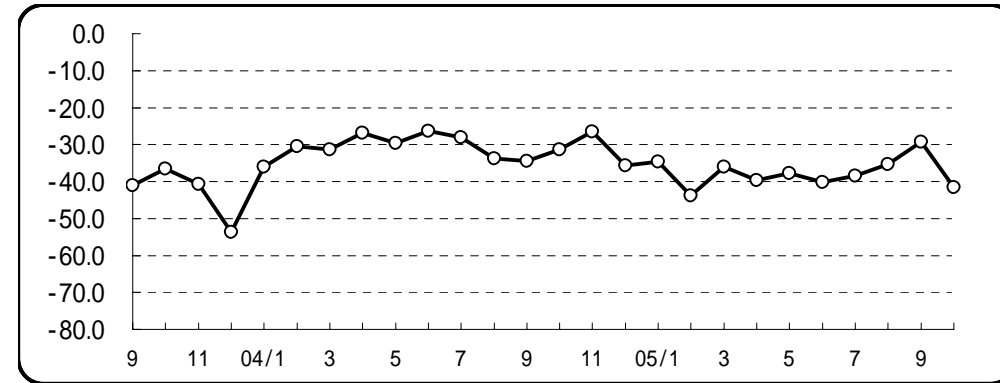
建設業



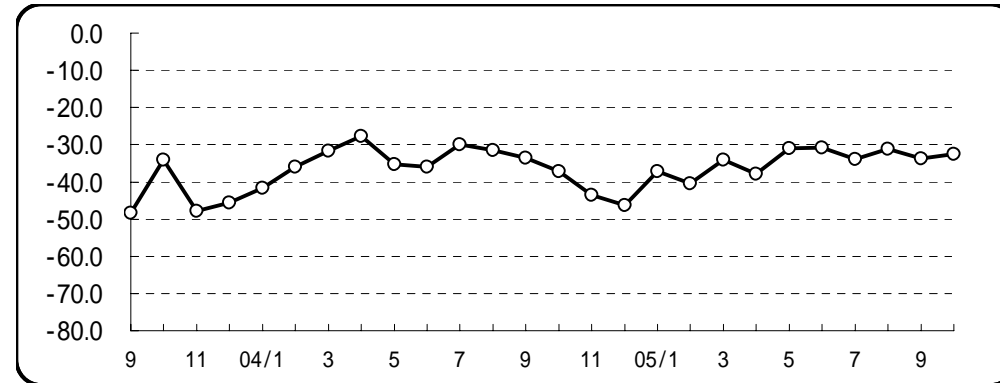
製造業



卸売業



小売業



サービス業

